



平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月11日

上場会社名 明治ホールディングス株式会社
コード番号 2269 URL <http://www.meiji.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 尚忠

問合せ先責任者 (役職名) IR広報部長 (氏名) 梅本 隆司

TEL 03-3273-3917

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日

平成22年12月9日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|---------|-----|--------|------|--------|------|--------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 23年3月期第2四半期 | 561,308 | 1.1 | 17,546 | 29.3 | 19,197 | 42.8 | 9,378 | 73.5 |
| 22年3月期第2四半期 | 555,308 | — | 13,573 | — | 13,443 | — | 5,406 | — |

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 23年3月期第2四半期 | 127.26 | — |
| 22年3月期第2四半期 | 73.42 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|---------|---------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 23年3月期第2四半期 | 729,050 | 299,203 | 40.0 | 3,955.01 |
| 22年3月期 | 730,044 | 297,771 | 39.7 | 3,933.05 |

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 291,451百万円 22年3月期 289,886百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|----------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 22年3月期 | — | 0.00 | — | 80.00 | 80.00 |
| 23年3月期 | — | 40.00 | — | — | — |
| 23年3月期 (予想) | — | — | — | 40.00 | 80.00 |

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|-----------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 1,120,000 | 1.2 | 29,500 | 2.5 | 30,000 | 5.9 | 15,000 | 14.6 | 203.55 |

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 有

詳細は、[添付資料]4ページ「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」、および 11月11日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

4. その他（詳細は、[添付資料]4ページ「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
- ② ①以外の変更 無

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|----------|-------------|----------|-------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 23年3月期2Q | 76,341,700株 | 22年3月期 | 76,341,700株 |
| ② 期末自己株式数 | 23年3月期2Q | 2,650,039株 | 22年3月期 | 2,636,540株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 23年3月期2Q | 73,694,351株 | 22年3月期2Q | 73,637,018株 |

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提条件その他の関連する事項については、[添付資料]4ページ「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
2. 当社は平成21年4月1日に明治製菓(株)と明治乳業(株)が経営統合し両社を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。平成22年3月期が第1期となるため、平成22年3月期第2四半期における対前年同四半期増減率はありません。

○添付資料の目次

| | |
|----------------------------------|----|
| 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 連結経営成績に関する定性的情報 | 2 |
| (2) 連結財政状態に関する定性的情報 | 4 |
| (3) 連結業績予想に関する定性的情報 | 4 |
| 2. その他の情報 | 5 |
| (1) 重要な子会社の異動の概要 | 5 |
| (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 | 5 |
| (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 | 5 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 6 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 6 |
| (2) 四半期連結損益計算書 | 8 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 9 |
| (4) 継続企業の前提に関する注記 | 10 |
| (5) セグメント情報 | 10 |
| (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 | 11 |

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

(単位：百万円)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 四半期純利益 | 1株当たり 四半期純利益 (円 銭) |
|------------------|---------|--------|--------|--------|--------------------------|
| 当第2四半期 連結累計期間 | 561,308 | 17,546 | 19,197 | 9,378 | 127.26 |
| 前第2四半期 連結累計期間 | 555,308 | 13,573 | 13,443 | 5,406 | 73.42 |
| 対前年同期 増減率(%) | 1.1 | 29.3 | 42.8 | 73.5 | — |

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、海外景気の下振れ懸念、国内におけるデフレの影響、厳しい雇用情勢に加え、急速に進む円高や輸出の鈍化などにより景気の悪化懸念が高まるなど、弱含む消費者マインドともあわせ依然として厳しい状況で推移しました。

かかる状況下、当明治グループは「2009-2011中期経営計画」の2年目として、主要テーマである「既存事業の強化・拡大」と「統合シナジー早期創出」のための取り組みを更に進めるべく、「市場競争力強化による中核事業の成長」、「新たな需要創造への取り組みの推進」、「あらゆるコストの見直しによるグループ経営体質の強化」などを図るための諸施策を積極的に推進しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は前年同期比1.1%増の5,613億8百万円、営業利益は前年同期比29.3%増の175億46百万円、経常利益は前年同期比42.8%増の191億97百万円、四半期純利益は前年同期比73.5%増の93億78百万円となりました。

[セグメント別の概況(連結)]

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | | その他 | 合計 | 調整額 | 四半期連結 損益計算書 計上額 |
|------|---------|---------|--------|---------|--------|---------|---------|-----------------------|
| | 乳製品 | 菓子・健康 | 医薬品 | 計 | | | | |
| 売上高 | 319,143 | 135,070 | 61,166 | 515,380 | 74,963 | 590,344 | △29,036 | 561,308 |
| 営業利益 | 10,058 | 148 | 5,212 | 15,419 | 2,204 | 17,624 | △78 | 17,546 |

(注)「その他」には、不動産、飼料、運送、倉庫、機械技術サービス、外食、保険代理店、リース等の事業を含む。

①乳製品セグメント

(単位：百万円)

| | 前第2四半期 連結累計期間 | 当第2四半期 連結累計期間 | 対前年同期 増減率(%) |
|------|------------------|------------------|-----------------|
| 売上高 | 316,167 | 319,143 | 0.9 |
| 営業利益 | 10,112 | 10,058 | △0.5 |

(注)市乳(牛乳類・ヨーグルト等)、粉乳(コナミルク等)、練乳、バター、チーズ、アイスクリーム、飲料、栄養食品(流動食・ヴァーム等)、畜産品等の製造・販売。(従来の明治乳業の「食品」セグメントに相当)

《主な業績のポイント》

乳業界では、記録的な猛暑もあってアイスクリーム市場が活性化したものの、飲用牛乳の消費低迷は依然として継続、しかも低価格競争による販売促進費の増加が加わるなど、全体として厳しい状況で推移しました。

かかる状況下、乳製品セグメントの概況は以下のとおりです。

- ・売上高は、「明治おいしい牛乳」が前年同期を上回ったものの、その他の牛乳類、粉乳、飲料などが苦戦しました。一方、「明治エッセルスーパーカップ」シリーズを中心としたアイスクリームをはじめ、チーズ、栄養食品などが好調に推移し、セグメント全体では前年同期を上回りました。
- ・営業利益は原材料コストの低減などがあったものの、販売競争に対応するための販売促進費の増加などにより、前年同期をわずかに下回りました。

②菓子・健康セグメント

(単位：百万円)

| | 前第2四半期 連結累計期間 | 当第2四半期 連結累計期間 | 対前年同期 増減率(%) |
|------|------------------|------------------|-----------------|
| 売上高 | 136,924 | 135,070 | △1.4 |
| 営業利益 | 109 | 148 | 35.8 |

(注) 菓子、砂糖および糖化穀粉等、健康食品（アミノコラーゲン等）、一般用医薬品（イソジン等）等の製造・販売、スポーツクラブの経営等。（従来の明治製菓の「フード&ヘルスケア」セグメントに相当）

《主な業績のポイント》

菓子業界は、当社主力の5カテゴリー（チョコレート・ガム・キャンデー・ビスケット・スナック）の市場が、引き続き前年を下回ったことに加え、猛暑の影響を強く受けるなど、厳しい環境となりました。また、不安定な原材料価格の動向が収益に大きな影響を与える状況が続いています。

かかる状況下、菓子・健康セグメントの概況は以下のとおりです。

- ・売上高は、菓子では営業活動を強化した板チョコ群や新商品が寄与したガム群は売上を伸ばしましたが、全体では前年同期を下回りました。健康では「アミノコラーゲン」「ザバス」の伸長に加え、「パーフェクトプラス」が好調に推移したものの、前年の新型インフルエンザ流行の反動による「イソジン」群の大幅な減売を補いきれず、前年同期を下回りました。
- ・営業利益は、売上の低迷や原材料価格高騰の影響を受けたものの、生産の効率化や販売費の削減を図ったことにより、前年同期を上回りました。

③医薬品セグメント

(単位：百万円)

| | 前第2四半期 連結累計期間 | 当第2四半期 連結累計期間 | 対前年同期 増減率(%) |
|------|------------------|------------------|-----------------|
| 売上高 | 58,077 | 61,166 | 5.3 |
| 営業利益 | 2,186 | 5,212 | 138.4 |

(注) 医療用医薬品及び農薬・動物薬等の製造・販売。（従来の明治製菓の「薬品」セグメントに、明治乳業の「その他」セグメント中の医薬品事業を加えたもの）

《主な業績のポイント》

薬品業界は、医療用医薬品においては新薬価制度の導入や医療費抑制策の推進、また農薬・動物薬においては申請・登録審査基準の厳格化など規制・指導が強化され、引き続き厳しい環境が続いています。

かかる状況下、医薬品セグメントの概況は以下のとおりです。

- ・売上高は、引き続き抗菌薬「メリアクト」が伸長、ジェネリック医薬品も好調に推移したことに加え、昨年8・9月に相次いで発売した新薬2製品（「オラペネム」「リフレックス」）の上乗せにより、薬価改定の影響はあったものの前年同期を上回りました。
- ・営業利益は、売上増による限界利益増、品種構成の改善、販売費および研究開発費の支出減等により、前年同期を大幅に上回りました。

④その他

(単位：百万円)

| | 前第2四半期 連結累計期間 | 当第2四半期 連結累計期間 | 対前年同期 増減率(%) |
|------|------------------|------------------|-----------------|
| 売上高 | 72,316 | 74,963 | 3.7 |
| 営業利益 | 1,708 | 2,204 | 29.1 |

(注) 不動産、飼料、運送、倉庫、機械技術サービス、外食、保険代理店、リース等の事業。（従来の明治乳業の「サービス・その他」セグメントの医薬品以外に明治製菓の「ビル賃貸他」のセグメントを加えたもの。昨年度の「サービス他」に相当）

《主な業績のポイント》

売上高、営業利益ともに、物流子会社の好調に加え、子会社の新規連結により前年同期を上回りました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①当期末の資産、負債、純資産の状況

〔資産〕

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は7,290億50百万円と前連結会計年度末に比べて9億93百万円減少しました。これは流動資産その他が38億13百万円、建設仮勘定が36億43百万円増加した一方、現金及び預金が23億16百万円、機械装置及び運搬具が40億20百万円、投資有価証券が40億58百万円減少したことなどによるものです。

〔負債〕

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は4,298億47百万円と前連結会計年度末に比べて24億25百万円減少しました。これは短期借入金が20億95百万円、長期借入金が29億53百万円減少したことなどによるものです。

〔純資産〕

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は2,992億3百万円と前連結会計年度に比べて14億31百万円増加しました。これはその他有価証券評価差額金が23億37百万円減少した一方、利益剰余金が52億83百万円増加したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は40.0%、1株当たり純資産額は3,955.01円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

| 区 分 | 前第2四半期 連結累計期間 | 当第2四半期 連結累計期間 | 増減額 |
|---------------------|------------------|------------------|--------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 24,328 | 29,843 | 5,515 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △14,618 | △18,964 | △4,346 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △8,723 | △12,503 | △3,780 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 76 | △162 | △239 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 1,063 | △1,787 | △2,850 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 14,429 | 16,061 | 1,631 |
| 新規連結による現金及び現金同等物増加額 | 228 | 21 | △206 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 15,721 | 14,295 | △1,425 |

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の増加、たな卸資産の増加による支出の減少、法人税等の支払額の増加などにより、前年同四半期より55億15百万円増の298億43百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が増加したことなどにより、前年同四半期より43億46百万円支出増の189億64百万円の支出となりました。

これにより、フリー・キャッシュ・フロー(営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計額)は前年同四半期より11億69百万円収入増の108億79百万円の収入となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、金融債務が減少したことなどにより、前年同四半期より37億80百万円増の125億3百万円の支出となりました。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は142億95百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

(単位：百万円)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|-----------|-----------|--------|--------|--------|
| 前回発表予想(A) | 1,131,000 | 29,000 | 29,000 | 15,000 |
| 今回発表予想(B) | 1,120,000 | 29,500 | 30,000 | 15,000 |
| 増減額(B-A) | △11,000 | 500 | 1,000 | — |

通期業績予想の売上高については、デフレの長期化や景気の悪化懸念を勘案し、前回予想より減額修正します。一方、利益については、第3四半期以降の主に医薬品セグメントにおける研究開発費・販売費の支出増などを勘案し、第2四半期累計期間の上乗せ利益を圧縮の上、営業利益、経常利益の前回予想を増額修正します。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①簡便な会計処理

(一般債権の貸倒見積高の算定方法)

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が連結子会社の前事業年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、連結子会社の前事業年度末に算定した貸倒実績率等を使用して一般債権の貸倒見積高を算定しております。

(棚卸資産の評価方法)

当第2四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、連結子会社の前事業年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

棚卸資産の簿価切下げに関して収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行っております。

(固定資産の減価償却費の算定方法)

一部の連結子会社においては、固定資産の年度中の取得、売却又は除却等の見積りを考慮した予算を策定しており、当該予算に基づく年間償却予定額を期間按分して算定する方法によっております。

また、一部の連結子会社においては、定率法を採用している資産について、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

②特有の会計処理

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

①資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益が13百万円、経常利益が27百万円、税金等調整前四半期純利益は490百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は814百万円であります。

②「持分法に関する会計基準」及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

第1四半期連結会計期間より、「持分法に関する会計基準」（企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分）及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第24号 平成20年3月10日）を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日) |
|---------------|-------------------------------|--|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 14,366 | 16,682 |
| 受取手形及び売掛金 | 153,593 | 154,589 |
| 商品及び製品 | 78,932 | 79,818 |
| 仕掛品 | 3,141 | 2,449 |
| 原材料及び貯蔵品 | 30,754 | 29,031 |
| その他 | 31,088 | 27,274 |
| 貸倒引当金 | △358 | △260 |
| 流動資産合計 | 311,518 | 309,585 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 306,198 | 303,470 |
| 減価償却累計額 | △168,450 | △164,441 |
| 建物及び構築物（純額） | 137,747 | 139,028 |
| 機械装置及び運搬具 | 412,554 | 409,951 |
| 減価償却累計額 | △307,502 | △300,878 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 105,052 | 109,072 |
| 工具、器具及び備品 | 57,473 | 55,867 |
| 減価償却累計額 | △47,217 | △45,554 |
| 工具、器具及び備品（純額） | 10,256 | 10,313 |
| 土地 | 67,538 | 67,291 |
| リース資産 | 4,540 | 4,004 |
| 減価償却累計額 | △1,098 | △832 |
| リース資産（純額） | 3,442 | 3,171 |
| 建設仮勘定 | 7,640 | 3,996 |
| 有形固定資産合計 | 331,677 | 332,875 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 740 | 899 |
| その他 | 8,732 | 9,576 |
| 無形固定資産合計 | 9,473 | 10,476 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 44,136 | 48,195 |
| その他 | 33,445 | 30,114 |
| 貸倒引当金 | △1,201 | △1,202 |
| 投資その他の資産合計 | 76,380 | 77,106 |
| 固定資産合計 | 417,531 | 420,458 |
| 資産合計 | 729,050 | 730,044 |

(単位：百万円)

| | 当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日) |
|--------------|-------------------------------|--|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 99,644 | 95,164 |
| 短期借入金 | 74,673 | 76,768 |
| コマーシャル・ペーパー | 27,000 | 28,000 |
| 未払法人税等 | 8,107 | 9,271 |
| 賞与引当金 | 12,410 | 11,046 |
| 返品調整引当金 | 270 | 265 |
| 売上割戻引当金 | 4,838 | 5,309 |
| その他 | 74,766 | 74,914 |
| 流動負債合計 | 301,711 | 300,741 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 55,000 | 55,000 |
| 長期借入金 | 36,678 | 39,631 |
| 退職給付引当金 | 16,229 | 15,711 |
| 役員退職慰労引当金 | 617 | 676 |
| その他 | 19,611 | 20,511 |
| 固定負債合計 | 128,136 | 131,531 |
| 負債合計 | 429,847 | 432,272 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 30,000 | 30,000 |
| 資本剰余金 | 98,852 | 98,852 |
| 利益剰余金 | 174,902 | 169,618 |
| 自己株式 | △9,174 | △9,125 |
| 株主資本合計 | 294,580 | 289,345 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 3,513 | 5,851 |
| 繰延ヘッジ損益 | △3,327 | △2,862 |
| 為替換算調整勘定 | △3,315 | △2,448 |
| 評価・換算差額等合計 | △3,129 | 540 |
| 少数株主持分 | 7,751 | 7,885 |
| 純資産合計 | 299,203 | 297,771 |
| 負債純資産合計 | 729,050 | 730,044 |

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日) |
|---------------------|---|---|
| 売上高 | 555,308 | 561,308 |
| 売上原価 | 372,254 | 370,058 |
| 売上総利益 | 183,053 | 191,250 |
| 販売費及び一般管理費 | 169,480 | 173,703 |
| 営業利益 | 13,573 | 17,546 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 28 | 20 |
| 受取配当金 | 648 | 597 |
| 固定資産賃貸料 | 701 | 693 |
| 受取補償金 | — | 2,000 |
| 持分法による投資利益 | 135 | 208 |
| 雑収入 | 704 | — |
| その他 | — | 705 |
| 営業外収益合計 | 2,217 | 4,224 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 1,296 | 1,162 |
| 為替差損 | 519 | 796 |
| 雑損失 | 531 | — |
| その他 | — | 614 |
| 営業外費用合計 | 2,347 | 2,572 |
| 経常利益 | 13,443 | 19,197 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 146 | 129 |
| その他 | 80 | 217 |
| 特別利益合計 | 227 | 346 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産廃棄損 | 1,524 | 1,005 |
| 減損損失 | 91 | — |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | — | 462 |
| その他 | 535 | 647 |
| 特別損失合計 | 2,152 | 2,115 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 11,518 | 17,428 |
| 法人税等 | 5,937 | 7,854 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | — | 9,574 |
| 少数株主利益 | 173 | 195 |
| 四半期純利益 | 5,406 | 9,378 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 11,518 | 17,428 |
| 減価償却費 | 18,584 | 20,194 |
| 減損損失 | 91 | — |
| のれん償却額 | 193 | 139 |
| 有形固定資産除却損 | 1,088 | 1,005 |
| 投資有価証券評価損益 (△は益) | 11 | 94 |
| 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | △24 | 92 |
| 賞与引当金の増減額 (△は減少) | 8,480 | 1,294 |
| 退職給付引当金の増減額 (△は減少) | 27 | △2,435 |
| 受取利息及び受取配当金 | △676 | △617 |
| 支払利息 | 1,296 | 1,162 |
| 持分法による投資損益 (△は益) | △135 | △208 |
| 有形固定資産売却損益 (△は益) | △146 | △97 |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | 3,742 | 1,712 |
| たな卸資産の増減額 (△は増加) | △7,426 | △2,006 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | 3,111 | 4,461 |
| その他 | △8,970 | △2,164 |
| 小計 | 30,766 | 40,055 |
| 利息及び配当金の受取額 | 787 | 705 |
| 利息の支払額 | △1,250 | △1,044 |
| 法人税等の支払額 | △5,975 | △9,872 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 24,328 | 29,843 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △13,371 | △18,614 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △1,068 | △1,042 |
| 有形及び無形固定資産の売却による収入 | 305 | 850 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △347 | △260 |
| 投資有価証券の売却による収入 | — | 115 |
| その他 | △136 | △12 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △14,618 | △18,964 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額 (△は減少) | 46,735 | △501 |
| コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少) | △13,000 | △1,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | △4,200 | △4,367 |
| 社債の償還による支出 | △35,000 | — |
| 少数株主からの払込みによる収入 | 65 | — |
| 自己株式の増減額 (△は増加) | △48 | △48 |
| 配当金の支払額 | △2,547 | △5,837 |
| 少数株主への配当金の支払額 | △155 | △136 |
| その他 | △571 | △611 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △8,723 | △12,503 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 76 | △162 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | 1,063 | △1,787 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 14,429 | 16,061 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | 228 | 21 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 15,721 | 14,295 |

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

(セグメント情報等)

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

(単位：百万円)

| | 乳製品 | 菓子・健康 | 医薬品 | サービス他 | 計 | 消去又は全社 | 連結 |
|-----------------------|---------|---------|--------|--------|---------|----------|---------|
| 売上高 | | | | | | | |
| (1) 外部顧客に対する売上高 | 314,332 | 133,297 | 56,842 | 50,835 | 555,308 | — | 555,308 |
| (2) セグメント間の内部売上高又は振替高 | 1,834 | 3,626 | 1,235 | 21,481 | 28,178 | (28,178) | — |
| 計 | 316,167 | 136,924 | 58,077 | 72,316 | 583,487 | (28,178) | 555,308 |
| 営業利益 | 10,112 | 109 | 2,186 | 1,708 | 14,116 | (543) | 13,573 |

(注) 1 事業区分の方法

事業区分の方法は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業区分の主要製品

| 事業区分 | 主要製品 |
|---------|---|
| 乳製品事業 | 市乳、粉乳、練乳、バター、チーズ、アイスクリーム、飲料、畜産品等 |
| 菓子・健康事業 | 菓子、砂糖及び糖化穀粉等、健康食品、薬局・薬店向け医薬品等、スポーツクラブの経営等 |
| 医薬品事業 | 医薬品及び農畜薬等 |
| サービス他事業 | 不動産、飼料、運送、倉庫、機械技術サービス、外食、保険代理店、リース等 |

[所在地別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

全セグメントの売上高の合計額に占める「本邦」の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

[セグメント情報]

①報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品・サービス別の事業子会社を有し、一部の事業子会社はカンパニー制を敷いております。事業子会社及びカンパニーは、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、事業子会社及びカンパニーを基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「乳製品」、「菓子・健康」、「医薬品」の3つを報告セグメントとしております。

「乳製品」は市乳、粉乳、練乳、バター、チーズ、アイスクリーム、飲料、栄養食品、畜産品等の製造・販売を行っております。「菓子・健康」は菓子、砂糖及び糖化穀粉等、健康食品、一般用医薬品等の製造・販売、スポーツクラブの経営等を行っております。「医薬品」は医療用医薬品及び農薬、動物薬等の製造・販売を行っております。

②報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

（単位：百万円）

| | 報告セグメント | | | | その他 (注1) | 合計 | 調整額 (注2) | 四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3) |
|---------------------------|---------|-----------|--------|---------|-------------|---------|-------------|-----------------------------------|
| | 乳製品 | 菓子・ 健康 | 医薬品 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| (1) 外部顧客に対する売上高 | 316,579 | 130,364 | 60,677 | 507,621 | 53,687 | 561,308 | — | 561,308 |
| (2) セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 2,563 | 4,706 | 489 | 7,759 | 21,276 | 29,036 | (29,036) | — |
| 計 | 319,143 | 135,070 | 61,166 | 515,380 | 74,963 | 590,344 | (29,036) | 561,308 |
| セグメント利益 | 10,058 | 148 | 5,212 | 15,419 | 2,204 | 17,624 | (78) | 17,546 |

(注) 1. 「その他」には不動産、飼料、運送、倉庫、機械技術サービス、外食、保険代理店、リース等の事業を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△78百万円には、セグメント間取引消去222百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△301百万円が含まれております。全社費用は、主に一部連結子会社における年金資産及び信託拠出有価証券の時価評価に伴う退職給付債務数理計算上の差異の処理額及び当社（持株会社）運営に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。